

バングラデシュの貧困緩和におけるマイクロクレジットの役割

ーボイラ村 (ボグラ県) の調査を通じてー

ラマン・モハマド・アルマヌル

はじめに

1. グラミン銀行の仕組み、他のプロジェクトと借り入れ機関について
2. バングラデシュの農村金融の実態とマイクロクレジットの役割
3. グラミン銀行の社会経済的効果と成功の要因

おわりに

はじめに

世界の最貧困国の一つであるバングラデシュでは1億3,300万の人口(国土面積147,570km²であって人口密度は約901人/km²である)⁽¹⁾のうち土地なし貧困層が49.8%⁽²⁾を占めている。この土地なし貧困層は、1人当たりわずか3,000~4,000タカ(1タカ=約2円)の融資があれば、貧困層からぬけ出すことができるといわれるが、一般の銀行は無担保では金を貸してくれない。グラミン銀行は、土地なし貧困層へ無担保でマイクロクレジット(少額貸付)という融資を行った結果、わずか2~3年間で約30%の所得を上げることに成功した(藤田、1998、p.283)。

グラミン銀行の基準では、貧困層というのは、土地なし階層ならびに、0.5エーカー未満の土地しか所有しない「機能上の土地なし」(functionally landless)⁽³⁾と呼ばれる階層を指している。グラミン銀行は、農村地域の0.5エーカー未満の土地しか所有しない貧困層、あるいは土地を所有しない貧困な農民に、無担保で短期ローンを貸与する金融機関である。2003年9月末、グラミン銀行は全国に1,190の支店を置き、バングラデシュの村の約50%⁽⁴⁾である4万3,258の村をカバーし、会員数は294万9,000世帯を超えている⁽⁵⁾。この294万9,000世帯という数字は、グラミン銀行がターゲットとする全国の土地なし世帯及び0.5エーカー未満の土地しか所有していない世帯の約25%に相当する。また

⁽¹⁾ Bangladesh Bank Annual Reoprt、2002年では、2002年の人口は1億3,120万人(人口密度889人)であるが、ボグラ県統計局(2003)によると1億3,300万人である。

⁽²⁾ Ministry of FINANCE, Government of the People's Republic of Bangladesh, Website, p.5, 2003.

⁽³⁾ 藤田(1990)、p.143。

⁽⁴⁾ バングラデシュには、8万6,038の村がある。BANBEIS、2003年11月20日。

⁽⁵⁾ Grameen Bank, Website, 2003年11月12日。

注目すべきことに、これだけの大規模な貸付業務にもかかわらず、グラミン銀行の返済率は92.6%⁽⁶⁾という高い成績を示している。

本稿の目的は、土地なし層を含む貧困層に対する無担保融資に取り組んできたグラミン銀行を取り上げ、その活動を紹介とともに貧困緩和におけるマイクロクレジットの役割をデータ分析とボイラ村（ボグラ県）でのアンケート調査にもとづいて考察することである。

1. グラミン銀行の仕組み、他のプロジェクトと借り入れ機関について

1-1 グラミン銀行の仕組み

1-1-1 男性ではなく女性に貸し付ける理由：グラミン銀行のマイクロクレジット・プログラムは、女性が商業銀行から融資を受けるのは非常に困難であり、また女性に貸したほうが効果的であるという考え方に立って、女性を中心に融資を行っている。現在、融資額の95%以上は女性を対象にしている（ムハマド・ユヌス&アラン・ジョリ、1997、pp.127～131）。

1-1-2 グラミン銀行に参加する方法：グラミン銀行の融資を受けることができる資格は0.5エーカー未満の土地しか所有しない者、または1.0エーカー相当額以下の資産しかもたない者（藤田、1990、p.152）である。融資は5人のグループへの貸付（連帯責任制）となっている。

1-1-3 返済方法：ローンの期限は1年となっていて、返済はローンを借りた1週間後から開始されるようになっている。まず元金の2%ずつを毎週一回合計50回で返済し、利子は52週間のうち最後の2週間に16%の利率（商業銀行並みの利子率）で返済する（藤田、1990、p.153）。グラミン銀行の返済率は92.6%以上という高い成績をあげている。

1-1-4 グラミン銀行と一般の商業銀行の違い：一般の銀行から融資を受ける場合に顧客は担保のためにどのくらい財産をもっているかを示す必要がある。しかし、グラミン銀行の場合は顧客がどのくらい貧しいかということを示さなければならない（ムハマド・ユヌス&アラン・ジョリ、1997、pp.166～171）。

1-2 グラミン銀行の他のプロジェクト

1-2-1 住宅ローン・プログラム：住宅ローンは、10,000～25,000タカを住宅建設のために貸付けるものである。貸付額に応じた10年までの長期貸付であり、年利8%が適用されるが、返済は普通ローンと同じように毎週行う。グラミン銀行は1984～2002年12月までに55万8,100戸以上の家の建設のために総額76億8,750万タカのローンを貸付けたが、その返済率は約99%⁽⁷⁾であった。

1-2-2 健康プログラム：健康プログラムでは、借り手本人が被保険者の場合年間3ドル（約145タカ）、借り手ではない人が被保険者の場合には5ドル（約242タカ）に相当する金額を、保険料と

⁽⁶⁾ Ministry of FINANCE, Government of the People's Republic of Bangladesh, Website, p.23, 2003.

⁽⁷⁾ Grameen Bank Annual Report, 2001, Ministry of FINANCE, 2003.

して支払い、治療を受けるときに約2.5セント(約19タカ)を受け取るようになっている⁽⁸⁾。

1-2-3 グラミン・トラスト：グラミン・トラストは、グラミン銀行の経験を世界各地で実践するための機関である。現在、世界の34ヵ国でプログラムが行われていて、2001年までに90万8,470人に対して3億1,540万米ドルの融資が行われ、返済率は約95%である⁽⁹⁾。

1-3 グラミン銀行の借入機関について

2001年の資金調達に対する借入金のシェアは32%であって、債券と社債が39.4%、貯蓄が28.7%であった。1999年と2000年に中央銀行から融資を受けたが、2001年の12月8日に返済されている。1999年と2000年の中央銀行からの借入は資金調達の8.6%と9.4%であった。借り入れ機関別でみると、J B I C (Japanese Bank for International Co-operation) が第1位(10%前後である)を占め、I F A D (International Fund for Agriculture Development) が第2位(9%前後)である⁽¹⁰⁾。1995年10月に日本のODAから農村の女性を中心とした貧困層にマイクロクレジット供与のため、グラミン銀行の農村開発信用事業に円借款による29億8,600万円の資金援助が行われた(谷本、1998、p.88)。

2. バングラデシュの農村金融の実態とマイクロクレジットの役割

1987年に実施されたバングラデシュ統計局による全国の金融調査によれば、農村金融に占める制度金融の割合は3分の1程度であった。この割合はきわめて低い水準である(藤田、1995、p.1)。バングラデシュの特殊銀行である農業銀行(Bangladesh Krishi Bank)、ショナリ銀行など国営商業銀行、政府機関、協同組合、NGO、グラミン銀行をすべて合わせても、農村世帯の借入件数の28%、借入金額の36%を占めているにすぎない。残りはいわゆる貸金業者、友人・親戚から借入となっている。これらは非制度金融と呼ばれ、以下のような二つ取引形態を持っている。(1)農地用益権の移転を代償とする取引、(2)農地用益権の移転を代償としない取引(藤田、1995、pp.18~23)。

本章では、バングラデシュの農村金融制度の実態とマイクロクレジットの役割について、まず筆者がボイラ村で行ったアンケート調査によってバングラデシュ農村の非制度金融の実態を取り上げ、次バングラデシュのマイクロクレジットの現状をデータ分析とボイラ村のマイクロクレジットの現状を通じて述べることにする。

2-1 ボイラ村のアンケート調査による非制度金融の役割

調査方法：筆者が2003年9月に、モハマド・アルマスル・ラマン氏にアンケート調査を依頼し、アンケート調査用の回答用紙(ベンガル語版)と調査方法の説明書を送った。その後同年の10月にアル

⁽⁸⁾ 健康プログラムについてはムハマド・ユヌス&アラン・ジョリ(1997、p.313)にしか触れられていない。ここでは、タカではなくドルで表示されている(1ドル=48.50タカ、1998年)。

⁽⁹⁾ Grameen Trust (2001)。

⁽¹⁰⁾ Grameen Bank, Annual Report (2000, 2001)。

マスル氏がモハマド・ヌルノビ氏と協力して筆者が指定したボイラ村で調査を開始した。まず、ボイラ村の貧困者が住んでいる地区へ行き、100戸の家を一戸ずつ訪問して口頭でアンケートの内容を説明した上で、一つずつ質問しそしてそれを回答用紙に記入した。このような方法をとったのは貧困者はほとんど読み書きできないからである。回答用紙の記入は11月下旬に終了した。

ボイラ村の非制度金融の役割：首都ダッカから約200km北西方向にあるボグラ県ソナトラ・タナ(郡)⁽¹¹⁾に属するボイラ村の非制度金融について述べることにする。このボイラ村はボグラ県の中を流れているコロトア河東の地域であって、河の西の地域に比べて貧困層が多い。この地域の土地は低く、洪水のときに最も被害を受ける地域である。ボイラ村はボグラ県の県庁から約35km～40km東にある。この村の人口は約3,000人で、約630の世帯が住んでいる。

全世帯の約60% (約380世帯) は貧困層であって、この貧困層の約半分の世帯 (約190～200世帯) は最貧困層であることが村民の話によって分った。回答を回収できた82世帯についていえば、そのうちの21世帯は貧困層で61世帯 (74.4%の世帯) が最貧困層である⁽¹²⁾。アンケート調査の実施にあたっては、貧困層が一番多い北ボイラを対象にし、貧困層が集中しているパラ (Para=地区/地帯) の家を一軒ずつ訪問し、100人にアンケートに回答してもらうことにした。

(1) 農地用益権の移転を代償とする取引：これは、貸付とともに借り手から貸し手に農地が引き渡され、その用益権が貸し手のものになる取引である。この借入は貸付金の返済が行われるタイプである。貸付元金が返済されるまで、農地用益権は債権者が継続して保持することとなる。ボイラ村の短期金融制度の利息を計算すると41%～111%であるが、長期金融制度の利子率は34%～72%となる⁽¹³⁾。

(2) 農地用益権の移転を代償としない取引：この貸付は一般貸付期間が数ヶ月の短期であって、担保は要求されない。この取引は、(a) 貸付金と利息の返済が粗によって行われるタイプでは、1,000タカ貸付元金につき7マウンド (2003年の価格で高収量品種IRRI米は、300タカ/マウンドである) の粗が元金と利息として支払われる。利子率は年利にして110%になる。(b) 貸付金と利息の返済が現金によって行われるタイプでは、貸付を現金で行い、元金と利息の支払いは現金で行われる。ボイラ村では、月利20% (年利140%) である。

⁽¹¹⁾ ボグラ県統計局 (2003年12月) によるとボグラ県の人口は310万5,800人であって、ソナトラ・タナ (郡) の人口は16万7,840人である。

⁽¹²⁾ グラミン銀行の基準では、0.5エーカー未満の土地所有者ならびに土地なし層を含んだ者が貧困層となる。政府の調査ではそれは全農民の49.8%となっている。筆者のアンケート調査では土地なしあるいはわずかの土地しか所有していない世帯で収入が2,000タカ未満である世帯を貧困層とし、1,000タカ未満の収入の世帯を最貧困層とした。また収入は2,000タカ以上であっても一世帯に5人以上のメンバーがいる場合については、その世帯を貧困層として扱った。

⁽¹³⁾ 短期 (1年間) であれば天候により米の収穫量が多い少ないのリスクがあるが、長期 (1年以上) であればそのリスクが平均化される。

このような非制度金融による取引は、高金利 (34%~140%) であって最終的にすべて (土地、家) 失われることが多く、制度金融による貸付が少ないためやむを得ず借りることになる。

2-2 制度金融としてマイクロクレジットの役割

バングラデシュの政府が1987年に行った農村信用調査のデータによると、農業銀行、ショナリ銀行といった制度金融機関は、富裕層になるほど利用率が高くなり、反対に金貸業者といった非制度金融に頼る割合は貧困層ほど大きくなっている。1987年の利用状況を平均でみると、制度金融を利用している貧困層は全体の36%である。1995年に実地された家計調査のデータによると、貧困層と富裕層は、両方とも貸金業者、親戚以外の知人など非制度金融からの借入が60%以上を占めており、この点に変わらないが、貧困層では貸金業者からの借入が40%以上に達している⁽¹⁴⁾。

2-2-1 バングラデシュのマイクロクレジットの現状

バングラデシュでは1,671のNGO機関が活動しているが、そのうちで2002年6月にマイクロクレジット・プログラムを行っているのは681のNGO機関である。このうち6つのNGO機関 (ASA, BRAC, Proshika, TMSS, Karitas, Swanirvar Bangladesh) がマイクロクレジットの80.7%の融資を行っている。この6つのNGO機関とグラミン銀行、PKSF、BRDBのマイクロクレジット・プログラムによってバングラデシュ全体のマイクロクレジットの現状について述べることにする。

マイクロクレジット・プログラムは、約1200万世帯とみられる貧困層をターゲットとする。このうちでグラミン銀行が累計248.3万世帯、PKSFが392.8万世帯、ASAが213.6万世帯、BRACが353.2万世帯、Proshikaが290.2万世帯、TMSSが35.3万世帯、Karitasが29.7万世帯、Swanirvar Bangladeshが80.7万世帯、BRDB-RD12が146万世帯、Karmasangstan Bankが3万世帯、民間の5商業銀行が23.3万世帯と国営の6商業銀行が1,228.7万世帯累計全体で3,391万世帯⁽¹⁵⁾ (表2-1) に少額貸付を行い、そのうち約85%は女性を対象としている。

グラミン銀行は農村に1,178の支店を置き41,636 (48.4%) ⁽¹⁶⁾村をカバーしている。ASAは1,172の支店を置き32,344 (37.6%) 村、BRACは1,085の支店を置き64,212 (74.6%) 村、Proshikaは75の地方開発センター (ADC) を置き25,275の村とスラム、そしてBRDB-RD12は54,367の協同組合を通じて融資を行っている。

グラミン銀行は全国の48.4%の村をカバーし、ターゲットとする世帯の約25%の世帯をカバーして

⁽¹⁴⁾ 中村まり (1999)、p.151。

⁽¹⁵⁾ バングラデシュの貧困層に当たるのは約1,200万世帯である。3,391万世帯 (融資を受けた3,391万人は3,391万世帯として計算されている) というのは再融資によって、また一つの機関から融資を受け、そこでうまくいかずその機関を変えて他の機関から再融資を受けることであって一世帯は二重に計算されている。

⁽¹⁶⁾ バングラデシュでは6つ地方、64県、490タナ (郡) 4,451ユニオン、86,038の村がある。BANBEIS2003。

表 2-1 主なマイクロクレジット・プログラム (2002年12月現在)

()内は%

機 関 名	村 数	支 店 数	メ ン バ ー 数		
			男 性	女 性	合 計
グラミン銀行	41,636	1,178	119,194 (4.8)	2,363,812 (95.2)	2,483,006 (7.3)
PKSF	n.a.	210	478,440 (12.2)	3,449,261 (87.8)	3,927,701 (11.6)
ASA	32,344	1,172	80,537 (3.8)	2,055,621 (96.2)	2,136,158 (6.3)
BRAC	64,212	(2000年)1,085	14,675 (0.4)	3,516,838 (99.6)	3,531,513 (10.4)
Proshika	25,275	(ADC)75	1,141,613 (39.3)	1,760,819 (60.7)	2,902,432 (8.6)
TMSS*	4,828	100	0	353,000 (100.0)	353,000 (1.0)
Karitas*	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	297,000 (0.9)
SwanirvarBangladesh	13,051	n.a.	196,678 (24.4)	609,950 (75.6)	806,628 (2.4)
その他のNGO機関*	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	3,462,000 (10.2)
BRDB-RD12	協同組合54,367	n.a.	430,062 (29.5)	1,030,323 (70.6)	1,460,358 (4.3)
Karmasangstan Bank	n.a.	85	n.a.	n.a.	29,720 (0.1)
民間 5 商業銀行	n.a.	n.a.	159,391 (68.3)	73,979 (31.7)	233,370 (0.7)
国営 6 商業銀行	n.a.	*4765	n.a.	n.a.	12,287,162 (36.2)
中央政府の省別貸付	n.a.	13の省	n.a.	n.a.	n.a.
合 計			2,620,590 (14.7)	15,213,603 (85.3)	33,910,075

(出所) Ministry of FINANCE, Government of the People's Republic of Bangladesh, 2003.11.20. Annual Report, Bangladesh Bank 1999～2000, 2000～2001, 2001～2000, Annual Report ASA 1998, BRAC 2000, TMSS 2001, PROSHIKA 2000～2001, PKSF 2000～2001, 2001～2002, Grameen Bank 2000, 2001より筆者作成。

注 1) 6 国営銀行の支店については、マイクロクレジットを行っている支店は一部である。

注 2) TMSS, Karitas とその他の NGO 機関は 2003 年 6 月。

注 3) ADC (Area Development Centres), BRDB-RD12 (Bangladesh Rural Development Board-Rural Development12), Karmasangstan Bank (ベンガル語：雇用の場を作るための銀行), PKSF (ベンガル語：農村労働協力機構), Proshika (ベンガル語：訓練、教育そして行動), Swanirvar Bangladesh (ベンガル語：バングラデシュの自立), TMSS (ベンガル語：テングマラ婦人協会)

注 4) P K S F : P K S F は 210 の N G O 機関をととして援助活動を行っている特殊な機関である。KarmasangstanBank : 1998年にバングラデシュ政府は、失業青年男女の雇用の場を作るために特殊な銀行を作り、マイクロクレジット・プログラムを行っている。B R D B : 国営農村開発機構。

表 2-2 マイクロクレジットの貸出実行額 (2002年12月現在)

単位: 億タカ、() 内%

機 関 名	1998年～2002年 12月までの累計額	～1997年12月 までの累計額	～2002年12月 までの累計額	貸付金の返済	返済率
グラミン銀行	718.0 (25.4)	981.7 (45.8)	1699.7 (31.3)	1573.4	92.6
PKSF	94.2 (3.3)	26.9 (1.3)	121.1 (2.2)	24.5	98.4
ASA	510.9 (18.0)	82.7 (3.9)	593.6 (10.9)	501.1	100.0
BRAC	650.1 (23.0)	216.1 (10.1)	866.1 (15.9)	774.4	99.3
Proshika	171.8 (6.1)	54.1 (2.5)	226.0 (4.2)	203.8	93.0
TMSS*	n. a.	n. a.	37.6 (0.7)	36.5	97.1
Karitas*	n. a.	n. a.	28.9 (0.5)	28.1	97.1
SwanirvarBangladesh	14.3 (0.5)	15.0 (0.7)	29.3 (0.5)	22.7	87.0
その他の NGO 機関*	n. a.	n. a.	361.53 (6.7)	351.2	97.1
BRDB - RD12	124.0 (4.4)	39.5 (1.8)	163.5 (3.0)	141.2	79.0
KarmasangstanBank	8.9 (0.3)	0	8.9 (0.2)	47.3	69.0
民間 5 商業銀行	n. a.	n. a.	29.9 (0.6)	29.3	98.0
国営 6 商業銀行	301.5 (10.7)	538.5 (25.1)	840.1 (15.5)	783.0	93.2
中央政府行政の省別貸付	238.7 (8.4)	188.3 (8.8)	427.0 (7.9)	350.8	82.2
合 計	2,832.4 (56.9)	2,142.8 (43.1)	5,433.2 (100.0)	4867.3	89.6

(出所) Ministry of FINANCE, Government of the People's Republic of Bangladesh, 2003. 11. 20. Annual Report, Bangladesh Bank 1999～2000, 2000～2001, 2001～2000, Annual Report ASA 1998, BRAC 2000, TMSS 2001, PROSHIKA 2000～2001, PKSF 2000～2001, 2001～2002, Grameen Bank 2000, 2001より筆者作成。

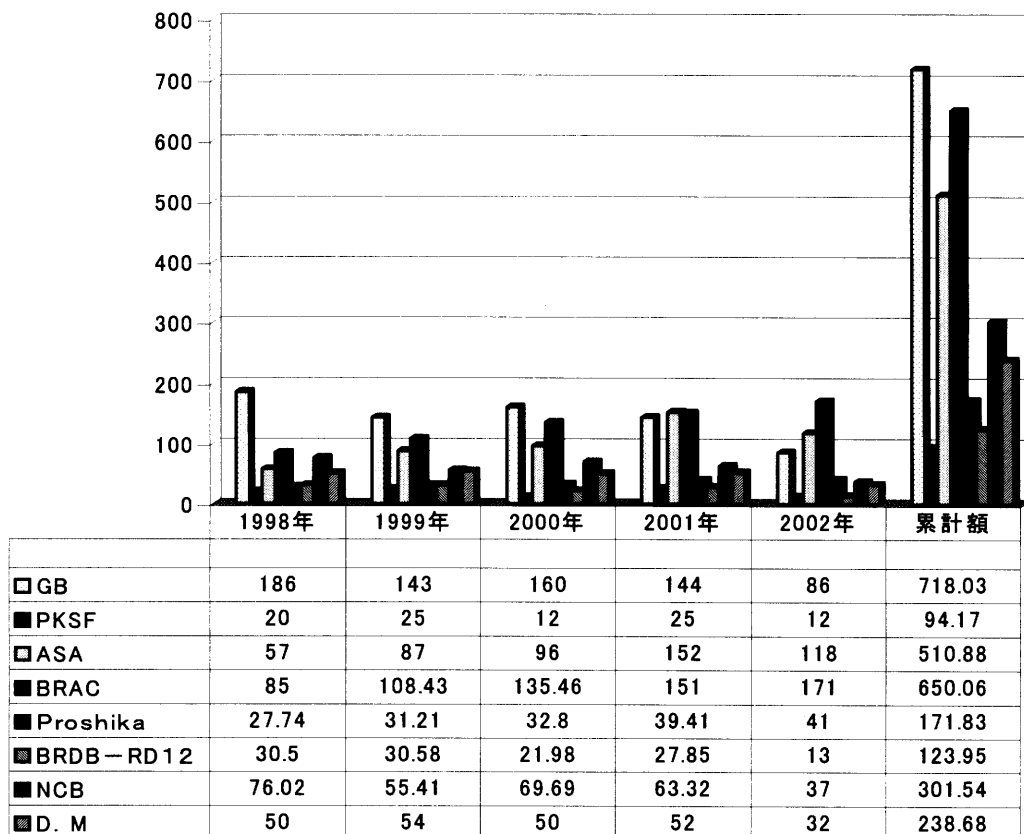
注 1) TMSS, Karitas とその他の NGO 機関の返済率は2002年 6 月までの平均返済率である。

いる。メンバー数は他の機関より少ないが、金額でみるとグラミン銀行は1997年12月までに全貸出の45.8%、2002年12月までに31.3%、1998～2002年12月までの5年間でみても累計額で25.4% (表2-2) を占めている。

ところで累計メンバーの一番多い6つの国営商業銀行は1997年12月までに累計額が25.1%であったが、1998～2002年12月までに15.5%へ減少した。それは1998～2002年の5年間で貸出金が10.7%減少したためである。また1997年12月までグラミン銀行は累計額で45.8%を占め、主なNGO機関ASA, BRAC, Proshikaと特殊な機関であるPKSFをあわせると63%以上を占めている。これに対して政府関

図 2-1 マイクロクレジットの貸出実行額 (1998～02年現在)

(単位：億タカ)



(出所) Ministry of FINANCE, Government of the People's Republic of Bangladesh, 2003.11.20. Annual Report, Bangladesh Bank1999～2000, 2000～2001, 2001～2000, Annual Report ASA1998, BRAC2000, PROSHIKA 2000～2001, PKSF 2000～2001, 2001～2002, Grameen Bank2000, 2001.より筆者作成。

注) GB=Grameen Bank (グラミン銀行)

NCB=Nationalized Commercial Bank (国営商業銀行)

D.M=Different Ministries (中央政府行政の色々な省) ←省別貸付

係の機関 (BRDB、6 国営商業銀行、省別貸付) の累計貸付額は1997年12月までにあわせて35.8%であったが、2002年12月までに26.3%まで減少した。1998～2002年の5年間にこれらの政府関係機関の貸出額がこの期間に限っていうとその割合は23.5%に落ち込んでいた (表 2-2、図 2-1)。これに対して5つの機関 (PKSF, ASA, BRAC, Proshika, Swanirvar Bangladesh) とグラミン銀行の貸付額は1997年12月までにあわせて64.2%で、2002年12月までには65.1%となった。1998～2002年までにこの6つの機関をあわせた融資額は75%以上にものぼっている¹⁷⁾。

¹⁷⁾ TMSS、Karitas、他のNGO機関、民間の5つの商業銀行については年別のデータを得られず、それ以外の機関だけで計算した。

最後に、1987年のバングラデシュ統計局のデータと1999年のSAPRIの農村調査を比較すると、1987年に制度金融による貸出は金額でみると36%しかなかったが、1999年にはこの借入金額シェアは約74%にまで上った。そして貸金業者、友人、親戚とその他をあわせての金額シェアは約26%に減少した。また、業別でみると1987年の借入シェアは銀行と政府機関からは29%、NGOとグラミン銀行から3%であったのに対して1999年の借入は銀行から34.8%にとマイクロクレジット機関から33.2%にも上った。貸金業者から借入はあまり大きく変化していないが、友人・親戚とその他からの借入は1987年に37%であったのに対して1999年にはわずか1%となった¹⁸⁾。

以上の結果をみると制度金融としてのマイクロクレジットが伸びたのは、この制度が貧困緩和に役割を果たし、そして借入側と貸出側双方にとっても取引がしやすかったからのように思われる。また、貧困層へ無担保で貸出しても返済率は約92.6%であり、グラミン銀行の累積黒字額（2001年）は2億3,185万タカに達している¹⁹⁾。

2-2-2 ボイラ村のマイクロクレジットの現状

これまでバングラデシュ全体のマイクロクレジットをさまざまなデータをとおしてみたが、次にボイラ村のマイクロクレジットについて、筆者が行ったアンケート調査によって述べることにする。村民の話では、1990年より以前にはボイラ村では、貸金業者いわゆる非制度による金融がほとんどを占めていたことが、アンケート調査によって分かった。また、制度金融が多少あったものの貧困層はその対象にならなかったということである。貧困層に対する制度金融が始まったのは、1990年にグラミン銀行が活動を始めてからであった。ボイラ村では制度金融による貸付を受ける前には、アンケー

表2-3 ボイラ村における借入先別構成（2003年11月）

(単位：タカ、()内男性)

借入先	メンバー数 人 (%)	貸出金	金額シェア (%)	一人当たり金額
グラミン銀行	40 (40.0)	295,000	62.0	7,375
TMSS	11 (11.0)	56,000	11.8	5,091
Proshika	23 (23.0)	103,000	21.6	4,478
	(15)	(75,000)	(15.8)	(5,000)
BRAC	18 (18.0)	n.a.	n.a.	n.a.
貸金業者	8 (8.0)	22,000	4.6	2,750
合 計	100 (100.0)	476,000	100.0	5,805

(出所) アンケート調査により筆者作成。

注) BRACの職員とメンバーからは協力を得られなかった。

注) メンバー数の総計は100名なので、構成比率と人数は一致している。

¹⁸⁾ SAPRI (2000), p.62.

¹⁹⁾ Grameen Bank, Annual Report (2001).

トに回答した82人のすべてが貧困層であった。この82人のうちで現在自分が貧しくはないと答えたのはグラミン銀行から融資を受けた17人とTMSSから受けた4人である。これは回答者の25%以上にあたる数である。融資の面でグラミン銀行から融資を受けている者は40人で、全体の40%（表2-3、回答した人の約50%）である。

次にProshikaについてみてみよう。Proshikaの（23%）に対する借入側の評価は低く、Proshikaから借りることによって彼らの生活は良くなるどころか、悪くなったと言う人もいる。彼らによると、返済は1週間～2週間の間隔であったほうがより効果的である。ここでは必要に応じてあるいは事業に応じて貸付（一律に男性に対して5,000タカと女性に対して3,500タカ）を行っていないことがProshikaに対する不満を高めている。対照的にTMSSから借入れた村民は11人しかおらず、Proshikaに比べて約半数であるが、そのうちの4人が貧困線²⁹を乗り越え、7人は以前より生活が良くなったという。

一人当たりの平均貸出額はグラミン銀行では7,375タカであって、TMSSでは5,091タカそしてProshikaでは4,478タカである。グラミン銀行がTMSSとProshikaを上回っている。また一人当たりの平均収入（月収）からみると、グラミン銀行のメンバーの収入は2,143タカ、Proshikaは770タカ、貸金業者から融資を受けている人は775タカといずれも低収入であるが、TMSSのメンバーの収入は7,727タカで高収入である。

ボイラ村ではProshikaに対して評価が低いが、アンケートに回答した82人のうちグラミン銀行の全員とTMSSの11人合計51人（60%以上である）はそれぞれの機関について高い評価をしている。この村ではマイクロクレジットが貧困緩和に大きな役割を果たしたと借り手によって感じられている。

2-3 まとめと評価

バングラデシュでは土地なし貧困層は担保がないため従来は非制度金融からの融資を受けざるを得なかった。筆者が行ったアンケート調査では、ボイラ村の非制度金融の利子率は34%～140%ときわめて高い水準であった。このような土地なし貧困層にグラミン銀行が初めて融資を行い、2003年9月までに累計額で1,859億1,200万タカの貸付けを行ったのである。グラミン銀行、NGO機関、政府系の機関や一般の商業銀行はマイクロクレジットという少額貸し付けによってバングラデシュ全国で2002年12月までに、3,391万の人々に無担保で累計で5,433億タカの融資を行ったのである。また、ボイラ村のアンケート調査でみると、グラミン銀行をはじめとする、TMSS、Proshika、BRACなどからの融資は、92%である。このうちでグラミン銀行から借りている人は40%であって、金額のシェアで約62%

²⁹ 雨をしのげる屋根のある家を持ち、家族全員が毎日3回食事をし、そして子供は学校へ通うのができる世帯は貧困線を乗り越えていると、筆者は考える。ボイラ村では、このような世帯のメンバーは4人以内であって月収は2,000タカ以上である。

を占めている。

1987年にバングラデシュ統計局が行った調査では、農村で制度金融は、貸付額で見ると36% (グラミン銀行の貸し付けは3%でしかなかった) でしかなかったのに対して、1999年にSAPRIが行った調査で見ると、マイクロクレジット機関の貸し付けは33.2%であって、制度金融による貸付額は約74%にも上ったことが分かる。

3. グラミン銀行の社会経済的効果と成功の要因

3-1 社会経済的効果

グラミン銀行から融資を受けた土地なし貧困層の多くは生活条件が経済的に向上した。この点について、主にアンケート調査の結果に依拠して述べることにする。

- (1) 制度金融以外による金融への依存度が著しく減少した。ボイラ村では、グラミン銀行のメンバーは40%、TMSSのメンバーは11%、Proshikaのメンバーは23%、BRACのメンバーは18%である。
- (2) 他のマイクロクレジット機関と比べて効果的であったのは、グラミン銀行から事業に見合った融資を受けることができる点である。
- (3) 雇用構造への影響がある。特徴的なのは、男性の場合には農業賃労働への就業が激減し、運輸 (リキシャ漕ぎ)、家畜飼養や商業活動といった自営業へのシフトが目立つようになったことである。ボイラ村では40人メンバーのすべてが女性であるが、現実には男性によって資金が運用されているのが半数以上であることが、アンケート調査によって分かった。
- (4) 固定資本、運転資本の累積的な蓄積を可能にしたということである。グラミン銀行から融資を受けることによって自分の農地、リキシャ (人力車)、ミシンなどを持ち、小作料あるいは使用料を必要がなくなり、収入はすべて自分のものになるようになった。
- (5) 所得が増加した。グラミン銀行のメンバーの所得の増加率は一番多く31.2%である。TMSSは24.1%とProshikaは16.5%である (表3-1)。

表3-1 グラミン銀行の所得引き上げ効果 (2003年)

(単位: タカ)

機 関 名	融資を受ける以前の所得 タカ/世帯	融資後の所得 タカ/世帯	増加率 (%)	融資以前 の貯蓄	融資後の 貯 蓄	人 数
グラミン銀行	1,473	2,142	31.2	0	395	30
TMSS	5,863	7,727	24.1	0	450	8
Proshika	643	770	16.5	0	0	0
BRAC	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
貸金業者	738	775	4.8	0	0	0
合 計	2,179	2,854	23.7	0	407	38

(出所) アンケート調査により筆者作成。

注) 増加率: 融資を受ける以前の収入と現在の収入の差額の比率。

(6) メンバーの家計支出は、所得の増加に伴って増加し、食料品をはじめすべての項目で支出が増加している。特に教育、住居、井戸、衛生的なトイレに対する支出増加が目立っている。

(7) グラミン銀行をはじめとする他のマイクロクレジット機関は、一般の銀行のシステムから自立した金融機関であったため、貧困層にも金融サービスを提供することができた。

最後に、グラミン銀行の融資は、女性に自立を与え、仕事の間を作ることができただけではなく、間接的に家の男性の雇用の機会を作り、その一家の家計所得にも変化にも影響を与えている。ボイラ村では返済率はほぼ100%である。

3-2 グラミン銀行の成功の要因

グラミン銀行は農村の貧困緩和に確実な影響を与えた。それを可能にした要因としては以下の諸点が考えられる。

- (1) グラミン銀行の成功の要因は土地なし貧困層に融資したことである。グラミン銀行は今まで融資を受けることができなかった貧困層に初めて無担保でマイクロクレジットを行い所得向上に大きな役割を果たした。
- (2) バングラデシュは保守的な社会であって、女性にはバルダ（女性が自由に外出できない）という行動規範があり、外での活動に大きな壁となっている。グラミン銀行のマイクロクレジットによって家庭内でも可能な経済活動の機会が与えられたのは成功の大きな要因となっている。
- (3) 5人組グループ（連帯責任制）貸付という制度が相互の監視を強制したこと、また資金運用と管理にも厳格な監視体制が成功の要因として重要である。さらに、期間が短く、定期的に収入の上がるような投資先²¹⁾に貸付を限定したことも成功の要因である。
- (4) グラミン銀行が成功した第一の要因は、5人のグループ（連帯責任制）、そしてそのシステムを支えるセンターの役割が大きい。センター長は行員の指導の下でセンターのメンバーをまとめ、そしてセンター長を支えているのがグループ長である。
- (5) 資金の貸付、管理、回収方法に係る制度的革新が大きい。顧客が銀行の支店に出向くのではなく、行員が村落に毎週出向き、センターの集会において銀行の業務を行うという制度を導入した。
- (6) メンバーの経済活動の妨げにならない。交通手段などを考慮し、多数のメンバーが居住しているパラの中心にセンターを置いて集会を開いている。
- (7) グラミン銀行の行員は銀行の建物にとどまっているのではなく、定期的にメンバーの家庭を訪問している。
- (8) メンバーの所得の上昇という経済的成功を背景に天引という形の強制貯蓄制度や勤儉貯蓄に対する教宣活動といった要因も重要な役割を果たした（藤田、1990、p.158）。

²¹⁾ ボイラ村では運輸業（リキシャ漕ぎ）、農業、商業活動、手織物製品、乳牛の飼養であり、次に役牛の飼養である。

(9) グラミン銀行の高い返済率が銀行の制度を支え、成功の大きな要因となっている。

(10) グラミン銀行のメンバーが貧困から抜け出しても再融資を行っている。再融資によってメンバーがずっと安定的に生活を続けることができた。

こうした要因に加えてシステム全体の効率を高めるために行われた銀行の職員研修制度が大きな役割を果たしたものと思われる。

3-3 問題点について

グラミン銀行は貧困緩和に大きい役割を果たし、社会経済的に影響を与えたが、いくつか問題があることは否定できない。1～2はグラミン銀行の組織内部の問題であり、3～6は組織外部の問題である。

(1) コストと貸し倒れがグラミン銀行の大きな問題である。収入の32.4%は支払い利子であって、44.9%と業務費が高い。また、収入に対する貸し倒れが大きく、銀行にとって問題である。貸し倒れが21.1%²²⁾ (表3-2) に対して利益は1.6% (4,884万タカ) であり、貸し倒れによって利益の大部分が失われている。

表3-2 グラミン銀行の経営収支

(単位: 100万タカ、() 内%)

	1999年	2000年	2001年	合 計	平 均
収 入	3,156.4 (100.0)	3,007.7 (100.0)	3,167.2 (100.0)	9,331.3 (100.0)	3,110.5
貸付金利子	3,110.7 (98.6)	2,933.8 (97.5)	3,038.9 (96.0)	9,083.4 (97.3)	3,027.8
その他 (預金利子など)	45.7 (1.5)	74.0 (2.5)	128.3 (4.1)	248.0 (2.7)	82.7
支 出	3,079.5 (97.6)	2,996.6 (99.6)	3,108.8 (98.2)	9,184.8 (98.4)	3,061.6
支払い利子	1,020.4 (32.3)	979.5 (32.6)	1,025.8 (32.4)	3,025.6 (32.4)	1,008.5
業務費	1,430.2 (45.3)	1,393.6 (46.3)	1,365.5 (43.1)	4,189.3 (44.9)	1,396.4
貸し倒れ	628.9 (19.9)	623.5 (20.7)	717.4 (22.7)	1,969.9 (21.1)	656.6
利 潤	76.9 (2.4)	11.1 (0.4)	58.5 (1.9)	146.5 (1.6)	48.8
(返済率)	(99.6)	(99.6)	(99.6)	(99.6)	—

(出所) Annual Report, Grameen Bank, 2000, 2001, より筆者作成。

²²⁾ 期限内に回収できなかったものは貸し倒れとみなされるが、この金額は回収できたときに収入として計算される。貸し倒れ21.1%は1999～2001年の3年間の平均である。Annual Report, Grameen Bank (2000, 2001)。

- (2) グラミン銀行を支える優秀で誠意ある人材、特に末端で働く行員を将来にわたって確保することできるかという問題である（藤田、1990、p.159）。
- (3) 現在は、融資を受けた者によって生産されている製品（手織物製品として竹細工、麻製品、刺繍など）に対しての需要が高く、問題がない。しかし、マイクロクレジット・プログラムが進展し、参入者が増加すると同じ物の生産が過剰になる可能性があるため、販売経路が限定されている狭い地域では製品の売上に影響を与えるかもしれない（藤田、1990、p.159）。
- (4) 融資を受ける際に、グループ長が2カ月以上待つことになる。このように審査などに時間がかかることが、貧困緩和に否定的な影響を与えている。
- (5) グラミン銀行では、一世帯に一人しか融資を受けられないことが貧困緩和を進める上での制約条件となっている。ボイラ村の場合、一世帯が6人以上の家族である世帯は9世帯であって、家族のメンバーの1人しか融資を受けられない。
- (6) グラミン銀行の融資は、1年の短期であって、資金回収がしやすい事業（農業、家畜、小売業、運輸など）を中心に融資を行っている。事業に応じて長期融資を行っていないため、工業あるいは製造部門には資金が貸付けられず、追加的雇用の機会を作るには障害となっている。

3-4 今後の課題と展望

グラミン銀行のマイクロクレジットは、貧困緩和に大きな役割を果たし、女性の社会進出にも貢献した。また、メンバーが住んでいる地区にセンターがあり、家事あるいは自分の仕事にも妨げにならないことも効果的であった。間接的に家の男性の雇用の機会も作った。

しかし、貧困層のすべての人々が融資を受けることができたとは言えない。グラミン銀行はメンバーが貧困線を乗り越えても、ずっと安定した生活が続けることができるよう再融資を行っているが、バングラデシュ全国にはまだ融資を受けることができていない貧困あるいは最貧困である大勢の人々がいる。そして、グラミン銀行以外にもマイクロクレジットを行っているNGO機関と特殊な機関もあるが、これらの中心的なプロジェクトではないため、マイクロクレジット・プログラムにはあまり力を入れてないことがボイラ村のアンケート調査からうかがうことができる。

現在、貧困緩和に大きな役割をはたしているグラミン銀行にも大きな課題が残っている。高い返済率（92.6%）がグラミン銀行の成功の大きな要因であるが、それでもなおグラミン銀行の収入の大きな部分（収入の21%以上）が貸し倒れによって失われている。また、収入の約45%（表3-2）が業務費に使われている。

グラミン銀行が抱えるこうした制度的欠点を修正し、新たなルール作りをするの必要がある。人件費、研修費を押さえ、貸し倒れも減らさなければならない。

おわりに

グラミン銀行の貸付額は、1987年に累計額では22億8,000万タカしかなかったが、1997年には累計額で 981億7,100万タカ、そして2003年9月までに累計額で約1,860億タカ（約3,720億円）近くの融資を行った。それによってバングラデシュの約50%の村をカバーし、約295万の人々に融資を行った。これはグラミン銀行がターゲットとする世帯の約25%にあたる数である。そしてグラミン銀行が融資を行った人々の3分の1が貧困線を乗り越え、さらに3分の1の人々が乗り越えられそうなどころまでにきているといわれている。

今回のアンケート調査で新たに判明したことは、以下の4点である。

- (1) 借り入れ側によると、資金の自己管理の能力がないために返済は毎週あるいは2週間に1回したほうがより効果的である。
- (2) 全国では、グラミン銀行から借りているメンバーの95.2%は女性であって、ボイラ村の40人のすべてが女性であるが、ボイラ村の40人のうち26人（65%のメンバー）の借り入れ金は家の男性によって運用されている。よって、男性が間接的に融資を受けていることになる。これは、女性を通じて融資したほうがより効果的であって、返済率も高いためである。
- (3) 一度グラミン銀行のメンバーになった場合、ずっと安定した生活続けるために融資を打ち切らずに再融資を行っている。
- (4) 貸し倒れによってグラミン銀行の収入の21%以上が失われている。

今回のアンケート調査はボグラ県ソナトラ郡にあるボイラ村という一つの村を取り上げ、約100人（回答は82人）を対象して行ったものにすぎない。明らかにしえなかった問題が多々残されていることは確かである。またボイラ村の状況がすべての村にあてはまるかどうかはまだ明らかではない。今後、事例調査を重ねる中でさらに分析を進めていきたい。

参考文献

日本語文献

1. 黒崎卓・山形辰史 (2001). 「マイクロ・クレジットの経済学」(『経済セミナー』No・559, 2001年)、pp.81~87。
2. 谷本寿男 (1998). 「バングラデシュにおける円借款の役割——社会構造に視点をおいた円借款の供与について——」(佐藤寛編『開発援助とバングラデシュ』、アジア経済研究所、1998年5月10日) pp.77~100。
3. 中村まり (1999). 「バングラデシュにおけるマイクロクレジット政策の理念」(『アジア経済』第40巻9・10号1999年10月)、pp.134~164。

4. 中村まり (2001). 「マイクロファイナンスを通じた貧困層の市場への参加」 (『経済論集』 (愛知大学経済学会) 第155号、2001年2月)、pp.115~137。
5. 藤田幸一 (1990). 「バングラデシュによる土地なし貧困への金融 ——グラミン銀行をめぐる——」 (『アジア経済』 第31巻第6・7号、1990年7月)、pp. 143~160。
6. 藤田幸一 (1995). 「バングラデシュ農村非制度金融の新動向 ——階層間金融フローの「逆転」をめぐる——」 (『農業総合研究』 第49巻第3号、1995年7月)、pp. 1~52。
7. 藤田幸一 (1998). 「農村開発におけるマイクロクレジットと小規模インフラ整備 (佐藤寛編『開発援助とバングラデシュ』、アジア経済研究所、1998年5月10日) pp.281~304。
8. 藤田幸一 (1999). 「バングラデシュ ——黄金のベンガル復興へみえてきた一条の光——」 (『アジア経済論』 1999年1月20日)、pp.422~448。
9. ムハマド・ユヌス&アラン・ジョリ (猪熊弘子訳) (1997). 『貧困なき世界をめざす銀行家』、早川書房、1997年10月。

英語文献

1. Annual Report, ASA (Association for Social Advancement), 1998.
2. Annual Report, BRAC (Bangladesh Rural Advancement Committee), 2000.
3. Annual Report, Grameen Bank—2000, 2001.
4. Annual Report, Grameen Trust—2000, 2001.
5. Annual Report, PKSF—2000~2001.
6. Toufic Ahmad Choudhury and Ananya Raihan (2000). "Structural Adjustment Participatory Review Initiative (SAPRI), Bangladesh—Study Theme 2 (C) : Implications of Financial Sector Reforms", Bangladesh Institute of bank Management, Dhaka, Bangladesh, 25. 5. 2000.

ベンガル語文献

1. Annual Report, Bangladesh Bank (バングラデッシュ中央銀行)—1999~2000, 2001~2002.

インターネット資料

英語

1. Annual Report, Proshika—2000~2001, <http://www.proshika.org/> (アクセス日: 2003年12月13日)
2. Annual Report, TMSS—2001, <http://www.tmss-bd.org/contact.Htm> (アクセス日: 2003年12月22日)
3. BANBEIS (Bangladesh Bureau of Educational Information and Statistics) <http://www.bbsgov.org/> (アクセス日: 2003年11月19日)
4. Grameen Bank Website: <http://www.grameen-info.org/bank/index.html> (アクセス日: 2003年11月)

月12日)

ベンガル語

1. Ministry of FINANCE, Government of the People's Republic of Bangladesh,
<http://www.gobfinance.org/economic/index.html> (アクセス日: 2003.11.20)